

種子島の香木の歴史

西之表市史編集副委員長 鮫嶋 安豊

種子島は周囲を東シナ海と太平洋に囲まれ、種子島の人々は古くから様々な形でこれらの海と関わって来た歴史がある。ところで、日本の名香 61 種中に「種島」という名香があることはあまり知られていない。(貞丈雑記)

このことは、古くから南方の品々(香木・紅花など)が種子島から京都へ届けられていた歴史を彷彿とさせる。(本能寺文書)

さらに、江戸時代中期(1789年頃)に書かれた「新古見聞記」にも、南から種子島に流れ着いた「香木」の記事 2 件が記されている。

1 安城海岸の香木

「沈香 一本 苞包みにして、掛け目約三十斤」

安城村の長野良左衛門が安城の海岸で香木を発見した。その後、香木は木之下休七という商人(西町)の手に渡り、良左衛門はそれを十六貫文で買取った。

この香木の寄り木(流木)の噂はたちまち役人へ知れ渡り、定め(法)により香木は没収され、既に金を支払っていた良左衛門は大損害を被った」とある。

江戸時代、流木も私物化できなかつたのである。

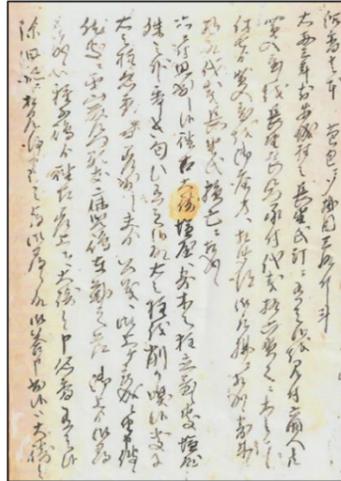
2 上西大崎の香木

その昔、大崎塩屋の海岸に寄り木があった。塩屋の人々は早速、塩小屋の柱材にこれを利用した。ところが、次第に塩小屋は香ばしい匂いで一満となり、人々は不思議に思い、この柱を削り、嗅いだ。芳ばしい香りがする。

香木と気づき、種子島の役人へ差し出した。それから、年月が経過したある日、種子島の役人(平山頭友)が種子島屋敷(鹿児島市)在勤時、藩主(御上)から「昔、種子島から差上せた大崎という名香があったと記録にあるが、そうであるか?」とお尋ねがあった。平山頭友は早速、種子島に問い合わせ、「確かに大崎塩屋より寄り木の香を差上せた話があった」と伝えた。

すると「薩摩の十文字香という名香伽羅は、正しくその大崎塩屋から差し出された香木である」と告げられた。(以上「新古見聞記」)

日本の名香 61 種中の「種島」及び「安城・大崎の寄り木」とまさに黒潮洗う種子島ならではの歴史である。塩小屋跡に佇むと、往時の威勢の良い塩焚く民の歓喜の音が聞こえる気がした。(了)



「新古見聞記」



鹽屋記念碑

記念碑前方は渚・塩小屋の往時を偲ぼせる



西之表市史編さんだより

自然部会

種子島の自然はやはりすごかった

自然部会長 寺田 仁志(元鹿児島県立博物館主任学芸主事)

地域の歴史や文化を考えるうえで自然の記述は不可欠です。人は自然の中で生まれ、自然に育てられ、自然に働きかけ、自然を変えていくものです。郷土史では現在までの自然の状況がどんなものなのかどんな特徴があるものなのか明らかにする必要があります。

本市の自然は 1 つの行政単位だけで語れるものではありません。例えば今住民を困らせているイヌマキの害虫キオビエダシヤクは、西之表市と隣町の中種子町との境を知っているはずはなく、食草のイヌマキの種子は、鳥や獣が花托を食べることで運ばれます。イヌマキを育む大地も広く、地球規模でつながっています。そこで自然分野では西之表市に限定せず、種子島の自然として記述することにしました。

自然の中身は多様です。「大地の成り立ち」「生き物の世界」「人と自然」の 3 分野でまとめました。「大地の成り立ち」は種子島の地質や地形、気象などについて、「生き物の世界」は、種子島の植生として植物群落、植物相、菌(きのこ)類、脊椎動物として哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、無脊椎動物として昆虫類、甲殻類、貝類を、「人と自然」は人と植物、文化財としての自然等を取り上げました。



赤く熟れるイヌマキの花托

総括してみると種子島の自然は豊かすぎました。当初の割り当てページをはるかに超えて記述しましたがそれでもまだまだ書ききれず、市史に収まり切れなくなってしまいました。掲載できなかったものは市のホームページ等で公開する予定です。

中世部会

中世編のみどころ

中世部会長 屋良 健一郎(名桜大学上級准教授)

市史の中世編では、12 世紀末から 16 世紀末までの時期を扱っています。種子島の歴史を知る上で重要な史料が『種子島家譜』です。歴代島主の事績だけでなく、種子島の政治や社会、文化に関する貴重な情報を私たちに伝えてくれます。ただ、『種子島家譜』は 19 世紀初頭に成立したもので、それより何百年も昔の中世の出来事については、記述があいまいなものや正確ではないと思われるものも含まれています。また、『種子島家譜』に記されなかった出来事もあります。

中世編では『種子島家譜』の記述をもとにしながらも、他の様々な史料をあわせて用いることで、中世の種子島の姿に迫っています。種子島氏はどのような経緯を経て、この島を統治するにいたったのか。戦国時代、島津氏や大友氏といった九州の大名と、また、京都の人々や琉球王国とどのような関係にあったのか。家臣団はどのような人々で構成されていたのか。そういった点に加え、種子島の宗教や城郭についても論じられているほか、日本国内・国外で記された地図に種子島がどう描かれているかというテーマもとりあげています。

そして市民の皆様が特に興味を抱いていると思われる鉄砲伝来についても、明治時代以降の研究の歴史や国内外に存在する史料について紹介しています。鉄砲の生産技術や鉄砲鍛冶の人々にも焦点をあて、鉄砲伝来を様々な視点から考えることを目指しました。

中世の種子島の内部の様子、そして外の世界とのつながりが、中世編で見えてくるのではないかと思います。種子島の躍動の歴史を皆様にお届けしたいと思っています。



時亮公銅像

種子島占領計画用のアメリカ軍地図を 東京都北区立中央図書館で発見！

森 友和 (近代史担当)

アメリカ軍は日本本土上陸作戦の前哨戦として、昭和 20 年 11 月 1 日に九州南部に上陸するオリンピック作戦を予定していた。これは関東上陸作戦（コルネット作戦）の為に飛行場を確保する目的であった。そのため九州南部上陸前に、近くに良好な艦艇の泊地を確保することを目的とし、輸送艦やダメージを受けた艦艇の休息場所として種子島を占領する必要があった。予定では種子島のほかに屋久島・甕島を泊地として、九州本土上陸五日前に占領する計画で、その作戦遂行のための地図「SHIMAMA NE」が東京都北区立中央図書館で保管されている。

この地形図は、地図に添付されている作成記録によると、太平洋戦争末期の昭和 20 年 4 月 14～15 日撮影の航空写真を使用し、太平洋艦隊兼太平洋方面軍司令部の指令で、太平洋アメリカ陸軍第 64 工兵技術大隊の第 1633 写真測量小隊が、マルチプレックスを使用し写真測量法で同年 7 月に作成、8 月に発行されたことが記載されている。この地図は、種子島の 25,000 分の 1 の上陸作戦用地図で、地名は日本陸軍参謀本部陸地測量部発行の 50,000 分の 1 地形図が使われた。



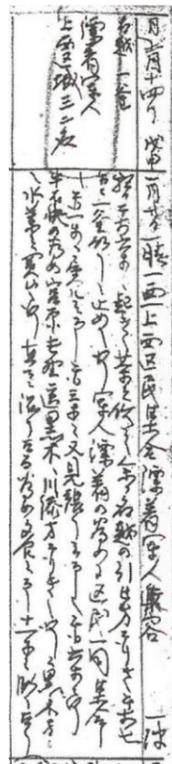
1/25000 米軍戦略地形図 SHIMAMA NE
東京都北区立中央図書館寄託「稲葉朝成家文書」

79 年の時を超えた感謝のメッセージが徳之島遺族から届きました。 馬毛島に池田青年団が建てた慰霊碑は何処に。

太平洋戦争後期に、冬の荒波で種子島沿岸に押し寄せた数百の兵士溺死体を、西之表住民は海中から引き上げて手厚く埋葬した。下村タミ子さん（現：西之表市語り部、当時：女学生）たちは、遺族に届くようにと海水で濡れた兵士の遺品を心を込めて乾かした。79 年後の今年 2023 年夏、徳之島の遺族から「種子島から届いた財布を大切にしています。流れ着いた浜はどこで、慰霊碑はあるのでしょうか。」と連絡があった。各県の護国神社や県立図書館の史料から、種子島出身のりま丸戦没者には西之表市 1 人（左の写真は現和武部の慰霊碑）、中種子町 2 人が含まれていたことも判明していて、調査した名簿の中から、福岡県（3 人）と徳之島（1 人）出身者が種子島に打ち上げられた溺死体であろうとの調査も進んでいる。

昭和 19 年 2 月 14 日の武田家日誌（右写真）には、「晴、西風、上西区民集合、漂着軍人収容。漂着軍人、上西区域 32 名」とその日の日誌の中に明記されている。

昭和 24 年、池田青年団（当時の団員 40 人）は、西之表の花木石材店で、表側に「慰霊碑」、裏側に「池田青年団建立」と刻んだ馬毛島の石を、兵士を茶毘に付した片平瀬が岡に建立し、本源寺の土屋智順氏を迎えて慰霊祭を行った。戦後、馬毛島を訪れたりりま丸戦没者の遺族が、遺骨を探すため埋葬地等を掘り返す作業を行った。その後、りま丸戦没者 2,700 名の慰霊碑は所在不明となっている。



陸軍一等兵 西川宗太
昭和十九年二月八日大島郡馬毛島附近にて戦死二十一才

写真、資料のご提供 ありがとうございます！

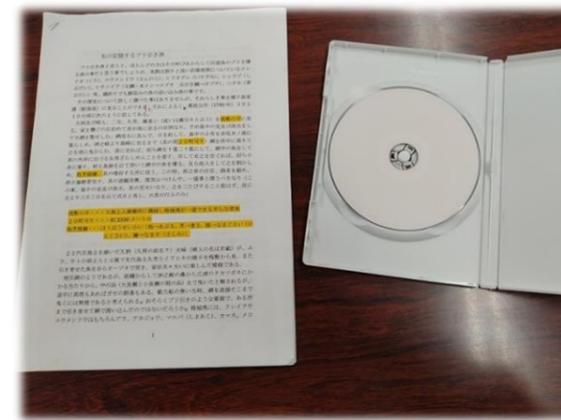
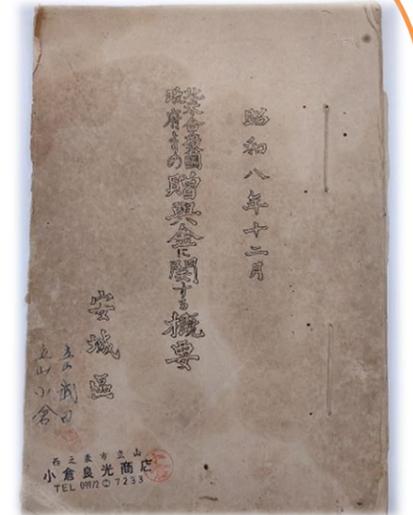


←林業まつり写真
(深田和幸さま)

平成 29 年 6 月に種子島森林組合が開催した林業まつりの写真を提供いただきました。

昭和 8 年 贈与金規約→
(小倉良光さま)

カシミア号救助に対するアメリカからの贈与金使途についての安城区規約を寄贈いただきました。



故岩坪修氏のブリ引き漁思い出、DVD
(岩坪浩二さま)

ブリ引き漁の体験談を方言を交えて詳細に記述した大変貴重な資料をご寄贈いただきました。



写真集 (前田和徳さま)

市内の自然や各種行事に足繫く参加され、写真を撮影されている前田さまから、これまでに自費出版された写真集（非売品）を寄贈していただきました。

市史編さん事業の経過 (R5.10 月以降)

- ・ 10 月 10 日～11 日 史料、土器等写真撮影
- ・ 10 月 12 日～23 日 施設写真撮影
- ・ 10 月 23 日 中世部会史料確認
- ・ 11 月 1 日 安城小学校石碑まつり
- ・ 11 月 2 日～16 日 校区史編原稿校正
- ・ 11 月 10 日 中世部会原稿校正打合せ
- ・ 11 月 24 日～28 日 近代部会史料確認
- ・ 11 月 30 日 古田中之町のお講取材
- ・ 12 月 17 日～20 日 中世部会史料確認
- ・ 12 月 25 日 編さんだより第 14 号発行
- ・ 12 月 25 日～26 日 中世部会史料確認



11 月 30 日 (木)、古田中之町公民館で行われた「お講」を見学させていただきました。法華宗檀家の皆さんが集まり、お経を頂戴していました。

11 月 1 日 (水)、安城小学校で実施された石碑まつりにお邪魔し、安城の歴史などについて講話を行いました。安城小の児童の皆さんはとて熱心にお話を聞いてくれました。

